

## 相談援助の基盤と専門職

問題 91 社会福祉士及び介護福祉士法に規定されている社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉士の名称使用は、登録後でなければならない。
- 2 業務を行うに当たっては、クライアントの主治医の指導を受けなければならない。
- 3 専門性の維持・向上を目的として、資格更新研修を受けなければならない。
- 4 所属する勤務先の立場を優先して業務を行わなければならない。
- 5 資質向上の責務として、相談援助に関わる後継者の教育指導に努めなければならない。

問題 92 「ソーシャルワークのグローバル定義」(2014年)におけるソーシャルワークの中核をなす原理として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 個人的正義
- 2 集団主義
- 3 自民族中心主義
- 4 自己責任
- 5 多様性尊重

(注) 「ソーシャルワークのグローバル定義」とは、2014年7月の国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)と国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)の総会・合同会議で採択されたものを指す。

問題 93 慈善組織協会(COS)に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 COSは、労働者や子どもの教育文化活動、社会調査とそれに基づく社会改良を目的に設立された。
- 2 COSの救済は、共助の考えに基づき、社会資源を活用して人と人が支え合う支援を行った。
- 3 COSは、把握した全ての貧困者を救済の価値のある貧困者として救済活動を行った。
- 4 COSは、友愛訪問員の広い知識と社会的訓練によって友愛訪問活動の科学化を追求した。
- 5 COSの友愛訪問活動の実践を基に、コミュニティワーカーに共通する知識、方法が確立された。

問題 94 アメリカにおけるソーシャルワークの統合化に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 統合化の背景には、専門分化されたソーシャルワーク実践が多様化する社会問題に対応できていたことがある。
- 2 統合化とは、ケースマネジメントとカウンセリングに共通する新しい知識や方法を明らかにする動きのことである。
- 3 ミルフォード会議の報告書(1929年)において、「ソーシャルケースワーク」という概念が初めて示され、統合化への先駆けとなった。
- 4 ジェネラリスト・アプローチは、ソーシャルワークの統合化の一形態である。
- 5 精神分析学は、ソーシャルワークの統合化に大きな影響を与えた。

問題 95 事例を読んで、この場面におけるB介護支援専門員(社会福祉士)によるCさんへの発言として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Cさん(82歳、女性)は、自宅で夫(85歳)と二人暮らしをしている。Cさんは認知症を患っているが、ある程度の判断能力はある。これまでCさんの身の回りの世話は夫が行ってきたが、夫が持病を悪化させ、半年ほど入院することになった。夫は、Cさんを近隣の施設へ入所させる意向がある。Cさん夫婦には息子がいるが、遠方に住んでいるため、今のままではCさんの身の回りの世話をすることはできない。息子は、Cさんを自分のところに引き取り、同居することを望んでいる。そこで、Cさんと話し合うことになった。

- 1 「Cさんは今後の暮らしをどのようになさりたいですか」
- 2 「施設に入所してはいかがでしょう」
- 3 「息子さんと同居することが良いと思います」
- 4 「Cさんが一人で決めるべきです」
- 5 「私(B介護支援専門員)が決めます」

問題 96 事例を読んで、Dスクールソーシャルワーカー(社会福祉士)による助言として、最も適切なものを1つ選びなさい。

[事例]

小学校2年生のE君(7歳)は、授業中に教室内を歩き回ることが頻繁にある。担任がE君の離席を注意すると、E君はパニックを起こし、泣き叫びながら教室の外に飛び出してしまう。授業の進度も大幅に遅れていることから、複数の保護者から担任の交代を求めるクレームが校長に寄せられている。校長は、教育委員会にスクールソーシャルワーカーの派遣を要請し、助言を求めることとした。Dスクールソーシャルワーカーは学校を訪問し、授業観察を行った。

- 1 校長に対して、E君を転校させる必要性があると助言する。
- 2 校長に対して、保護者からのクレームは気にする必要がないと助言する。
- 3 校長に対して、個別的な対応をするため、特別支援教育支援員配置の必要性があると助言する。
- 4 E君の担任に対して、E君の指導を厳格にするよう助言する。
- 5 E君の保護者に対して、家庭でのしつけを徹底するように助言する。

問題 97 事例を読んで、次の記述のうち、F相談員(社会福祉士)の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

大学3年生のGさん(21歳、女性、未婚)は、妊娠3か月であることが分かった。Gさんは、自分が通う大学の学生相談室を訪れ、F相談員が対応することになった。Gさんによれば、子の父親とは音信不通となっている。Gさんは出産し、子育てをしていくことを強く希望しているが、周囲には賛成してくれる人はいない。大学は卒業したいと考えているが、親には頼れず、経済的な不安がある。Gさんは、「どうしてよいか分からない」と語った。

- 1 主治医と連絡を取り、Gさんが出産するかどうかの意思決定支援を一任する。
- 2 大学の関係部署と連携し、学業と子育てを両立するための方策を検討する。
- 3 学業を優先する必要があるため、出産、子育ては断念するように助言する。
- 4 特別養子縁組制度の活用を勧め、仲介してくれる機関を紹介する。
- 5 子の父親を捜し出し、認知してもらうように説得する。